

シラバス一覧

livecampus

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名				主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-17 教育と社会	20130586018501	●教育と社会 Ⅰ(教育原理 論)	和	E		山岸 賢 一郎	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-17 教育と社会	20130586018901	●教育と社会 Ⅰ(教育心 理)	和	E		吉村 幸	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-17 教育と社会	20130586019301	●教育と社会 Ⅰ(教育行 政・制度論)	和	E		楠山 研	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～

戻る



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-17 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586018501	科目番号	05860185
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育原理論)		
編集担当教員	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山岸 賢一郎		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学・歯学・工学・環境		
担当教員Eメールアドレス	yamagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 2 2 1		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜 3 時限（要メール連絡）		
授業のねらい	教育に関する事からについて、「批判」的に考える。たとえば、教育とは何か、なぜ教育をするのか、私たちに何が求められているのか、等々。		
授業方法（学習指導法）	授業は、講義と、受講者の発表および討議による。なお、受講者には必要に応じて、授業前・授業後の課題を提示する。授業外学習は必須。		
授業到達目標	教育に関する事からについて、哲学的ないし歴史的ないし社会学的な視点から、「批判」的に考えることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション（この授業について／「子ども」とは？）	
	2	教育するのは当たり前のことなのか？	
	3	近代の教育思想 1	
	4	近代の教育思想 2	
	5	まとめと討論：近代教育について批判的に考える	
	6	教育の今を考えるために 1 日本の教育の歩みはどんなかんじ？	
	7	教育の今を考えるために 2 教育は何をめざす？	
	8	教育の今を考えるために 3 教師はいろいろ大変だ？	
	9	まとめと討論：教育の今を批判的に考える	
	10	教育言説を問い直す 1：青少年は凶悪化した？	
	11	教育言説を問い直す 2：家庭・地域の教育力は低下した？	
	12	教育言説を問い直す 3：道徳教育をどげんかせんといかん？	

	13	教育言説を問い直す４：これって疑似科学じゃ？
	14	教育言説を問い直す５：ジェンダーをめぐるアレコレ
	15	まとめと討論：あれやこれやの教育言説について批判的に考える
	16	
キーワード	批判，教育原理，教育哲学，教育史，教育社会学	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しない。 参考図書は授業中に適宜紹介するが，以下の参考図書は開講前に読んでおいて損はない。 江藤ほか『子どもの教育の歴史』名古屋大学出版，2008 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書，1999 土戸敏彦『冒険する教育哲学』勁草書房，1999	
成績評価の方法・基準等	討議等における授業参加度，小レポート３０％ 最終レポート８０％	
受講要件（履修条件）	授業外学習，週２時間以上	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-17 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586018901	科目番号	05860189
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育心理)		
編集担当教員	吉村 幸		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 幸		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	osamu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	アドミッションセンター		
担当教員TEL	2117		
担当教員オフィスアワー	随時（メールで予約）		
授業のねらい	受講生が、学校教員として身につけておくべき心理学的事項にどのようなものがあるかを知りその概要を理解することをねらいとします。		
授業方法（学習指導法）	授業は講義形式で行います。レスポンスペーパーを利用した教員と学生、学生同士の意見交換を試みます。積極的に関与してください。受講者が少数の場合、グループワークも取り入れたと考えています。		
授業到達目標	学校教育に関わる心理学的事項の概要を理解することを目標とします。		
授業内容	回	内容	
	1	ガイダンス 授業の進め方、本科目の概要について	
	2	教育心理学とはどのようなものか（心理学史の概要）	
	3	学習について（古典的学習理論）	
	4	学習について（オペラント学習）	
	5	学習について（オペラント学習）	
	6	学習について（認知心理学における学習）	
	7	学習について（認知心理学における学習）	
	8	学習について（認知心理学における学習）	
	9	学習について（観察学習） 動機・意欲について（自己効力感、原因帰属、ビリーフなど）	
	10	学習について（観察学習） 動機・意欲について（自己効力感、原因帰属、ビリーフなど）	

	11	発達について（認知の発達，ピアジェの理論など）
	12	発達について（ピアジェの理論，ヴィゴツキーの理論）
	13	発達について（ヴィゴツキーの理論，エリクソンの理論）
	14	発達について（発達障害）
	15	教育評価
	16	期末テスト
キーワード	学習 発達	
教科書・教材・参考書	WebClassを利用して資料等を配布します。必ず利用できるようにしておいてください。	
成績評価の方法・基準等	原則として，期末試験（60％），小テスト（20％），課題（20％）ですが，授業の様子をみて変更することがありますのであらかじめ承知しておいてください。	
受講要件（履修条件）	同一科目履修者の再履修は認めません。	
本科目の位置づけ	教員免許取得に必要な教職教養科目	
学習・教育目標	児童生徒の学習と発達を理解する際に心理学的視点を少し持てるようになることを目標とします。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	wikiで教育心理学を確認しておいてください。 （URL） http://ja.wikipedia.org/wiki/教育心理学	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-17 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586019301	科目番号	05860193
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育行政・制度論)		
編集担当教員	楠山 研		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 2 1 9 室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	随時（要メール連絡）		
授業のねらい	教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。		
授業方法（学習指導法）	簡単な講義を話題提供として、討論形式を中心に、適宜映像資料等を利用して授業を進めていく。各自 2～3 回、討論のたたき台を提案する機会がある。		
授業到達目標	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的に身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。		
授業内容	回	内容	
	1	第 1 回 オリエンテーション（この授業の進め方について）	
	2	第 2 回 授業担当者からの提案（1） 教育行政・制度とは何か	
	3	第 3 回 授業担当者からの提案（2） 現代における教育行政・制度①	
	4	第 4 回 授業担当者からの提案（3） 現代における教育行政・制度②	
	5	第 5 回 討論の進め方と練習	
	6	第 6 回 討論（1） 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	7	第 7 回 討論（2） 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	8	第 8 回 討論（3） 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	9	第 9 回 討論（4） 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める	
	10	第10回 ここまでの議論のまとめと今後の提案作り	
	11	第11回 討論（5） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める	

	12	第12回 討論（６） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	13	第13回 討論（７） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	14	第14回 討論（８） 参加者からの提案を手がかりに議論を進める
	15	第15回 教育行政・制度を学んでわかること
	16	試験
キーワード	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しない。 参考書 河野和清『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 その他の参考書は授業中に適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	この授業の目標が達成されているかどうかという観点から評価する。 授業中の討論への貢献度 40％ 授業中の小レポート等 30％ 定期試験 30％	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

